

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	ハタノ総合印刷株式会社新工場		階数	地上1F
建設地	熊本県上益城郡嘉島町		構造	S造
用途地域	市街化調整区域		平均居住人員	60人
気候区分	6地域		年間使用時間	2,200時間/年
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年10月 予定		評価の実施日	2015年4月14日
敷地面積	7,896 m ²		作成者	
建築面積	3,425 m ²		確認日	
延床面積	3,419 m ²		確認者	



1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

★★★★★

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆

排出率 **86%**

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

☆☆☆☆

評価点 **78**

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	☆☆☆☆☆
80点以上100点未満	☆☆☆☆
60点以上80点未満	☆☆☆
40点以上60点未満	☆☆
40点未満	☆

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	55.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	78.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	84.7

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》| 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ハタノ総合印刷株式会社新工場	階数	地上1F
建設地	熊本県上益城郡嘉島町	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,200時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年10月 予定	評価の実施日	2015年4月14日
敷地面積	7,896 m ²	作成者	
建築面積	3,425 m ²	確認日	
延床面積	3,419 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 78

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 85.0	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 55.0
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 78.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 84.7

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境			0.30					2.9
1 音環境		2.1	0.15					2.1
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		1.8	0.40					
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	3.0				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0				
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0				
2 温熱環境		2.5	0.35					2.5
2.1 室温制御		2.8	0.50					
1 室温		3.0	0.38	3.0				
2 外皮性能		1.0	0.25	3.0				
3 ゾーン別制御性	ゾーン毎に設定可能な空調システム	4.0	0.38					
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0				
3 光・視環境		2.7	0.25					2.7
3.1 昼光利用		1.8	0.30					
1 昼光率		1.0	0.60	3.0				
2 方位別開口			-	3.0				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0				
3.2 グレア対策		3.0	0.30					
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0				
3.3 照度	平均照度503lx	4.0	0.15	3.0				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0				
4 空気質環境		4.0	0.25					4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材の採用	5.0	1.00	3.0				
2 アスベスト対策			-					
4.2 換気		3.0	0.30					
1 換気量		3.0	0.33	3.0				
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0				
4.3 運用管理		3.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50					
2 喫煙の制御	建物内は、禁煙	5.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					3.1
1 機能性		2.9	0.40					2.9
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40					
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペース 12.2㎡	5.0	0.33	3.0				
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	3.0				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30					
1 広さ感・景観	事務室の天井高さ 3.0m	5.0	0.33	3.0				
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33					
3 内装計画	計画的な内装の取り組み、機能の明確化、インテリアパースによる事前検証	4.0	0.33					
1.3 維持管理		3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
3 衛生管理業務			-					
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30					3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	金属断熱サンドイッチパネル	4.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B・Cを使用	4.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					
2.4 信頼性		2.8	0.20					
1 空調・換気設備		3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20					
3 電気設備		3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20					
5 通信・情報設備		2.0	0.20					

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		5.0m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		比率:0.14	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.74 住宅(専有部) -	4.0	0.63	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		モデル建物法[BEIm]での評価	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			2.0	0.25	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型便器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		SM490A, SS400	4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床材、壁紙	4.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤・シーリング材等	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1 消火剤		ハロン消火剤使用なし(粉末消火器)	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		空調:新冷媒R32	4.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		敷地内に調整池設置	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪場の確保、駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインの過半を満たす、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

敷地外周には緑地を確保し、ゆとりある配置計画を行っている。
建物はシンプルなデザインとし、周辺環境にも配慮した色彩とする。

Q1 室内環境

内装仕上げ材はF☆☆☆☆の建材を採用し、化学物質汚染の防止に努める。

Q2 サービス性能

執務スペースの広さや天井高さを十分に確保し、機能性や快適性に配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内に緑地スペースを設け、周辺との調和に配慮した。

LR1 エネルギー

断熱性能の高い屋根材・外壁材とし、開口部にはブラインドを設置し、建物の熱負荷低減を図るとともに、LED照明器具などの採用によるエネルギーの高効率化に努める。

LR2 資源・マテリアル

節水型器具を採用し、節水に努める。
有害物質を含まない材料を使用する。

LR3 敷地外環境

燃焼機器を使用しておらず、外部空間に対して大気汚染物質を発生させない。
周辺環境への光害の抑制として、広告物用照明の設置を行わない。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 **ハタノ総合印刷株式会社新工場**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点		78
重点事項					評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数	重点項目			
① 温室効果ガス排出量削減の推進					85	0.40	34.00
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.10				
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10				
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.10				
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.00				
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20				
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30				
LR2-2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10				
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10				
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現					55	0.20	11.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25				
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15				
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20				
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15				
③ 県の地域資源の有効活用と保全					78.5	0.20	15.70
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.29				
LR2-1.1	節水	4.0	0.43				
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29				
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00				
④ 循環型社会の実現					84.7	0.20	16.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30				
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30				
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数